

早稲田大学 商学部 日本史 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	大問数6題、小問数59問は例年通り。記述問題9問、選択問題49問(内訳は正誤判別22問・語句選択22問・組合せ4問・配列1問)、論述問題1問(30字)。2つ選ぶ形式は昨年度同様10問。時代別では古代、中世、近世、近代2題、戦後の計6題で固定されている。分野別では昨年度は半分近くが外交史、次いで政治史・社会経済史・文化史の順であり、今年度は半分が政治史、次いで外交史、そして社会経済史・文化史が同程度となっている。昨年度は第2・3・4問、今年度は第3・4問が史料問題。全体的な難易度は標準～やや難といったところ。試験時間60分は適当であろう。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
1	古代の対外関係	問A: 3が正解。『漢書』は班固。1「范曄」は『後漢書』、4陳寿は『三国志』。問B: 4が正解。福岡県の志賀島から金印が発見された。問C: 2が正解。「倭」のことだが「にんべん」がない。問D: 4が誤り。「親魏倭王」の印は発見されていない。問E: 3が正解。邪馬台国を中心に約30国の小国の連合。問F: 1が正解。265年に建国された晋(西晋)に対し、266年に倭の女王(老与か)は使者を送った。問G: 2が誤り。「中国の北朝」ではなく中国の南朝。問H: 2が正解。倭王武は雄略天皇と考えられている。問I: 難問。1が正解。稲荷山古墳は埼玉県行田市の埼玉(さきたま)古墳群に属する。問J: 5が正解。磐井は新羅と結び527年に反乱を起こした。	やや易
2	院政の歴史	問A: 2が正解。白河天皇は8歳の堀河天皇に譲位し、上皇となり院政を開始した。問B: 3が誤り。国司には中央から貴族が派遣され、郡司には地方豪族が任じられた。問C: 4が正解。藤原宗忠の日記『中右記』からは院政開始期の様子がうかがえる。問D: 2が誤り。白河上皇は鳥羽上皇の「父」ではなく、祖父である。問F: 1が正解。「越後」は東国(東海道・東山道)ではなく北陸道に含まれる。問F: 4が誤り。御成敗式目が制定されても、公家法や本所法はまだ効力をもっていた。問G: 3が誤り。承久の乱後、後堀河天皇は「院政」を行ったのではなく天皇として即位した。問H: 5が誤り。大覚寺統は「北朝」ではなく南朝へと継承された。問I: 4が誤り。鎌倉府は室町幕府における機関。問J: 1が正解。宇多天皇が滝口、白河上皇が北面、後鳥羽上皇が西面の各武士団を組織した。	標準
3	『折たく柴の記』 ＜史料＞	問A: 3が正解。史料1は生類憐みの令廃止のことが話題なので、前将軍徳川綱吉の大喪(葬儀)である。問B: 難問。5が正解。史料中の「ただいかにもして、御遺誠のごとくならむ事を思召されしかば」以下の現代語訳は「(徳川家宣は)ただどうしても(綱吉の)御遺言によるという形にしたいとお考えなされたので、まずハ(=柳沢吉保)を呼んで、お考えを言いつけなされると、吉保ももともと生類憐みの令を良いと思っていたわけではない」となる。つまり「時期将軍」(徳川家宣)だけでなく「前将軍の側近」(柳沢吉保)も「この法令を停止すべきであると考えた」のである。問C: 難問。1が正解。	やや難

番号	出題内容	コメント	難易度
3		問Bと連動するが、史料文を正確に読解しないと、これを柳沢吉保と判断できない。問D：2が正解。史料2の「ロウマ人」はイタリア人宣教師シドッチのこと。問E：4が正解、問F：5が正解。貿易制限を企図して新井白石が出した法令は海舶互市新例である。問G：やや難。4が正しい。史料3に「人間を含む一切の生類」とあるように、捨て子の養育義務も規定されていた。問H：3が正解。服忌令は服喪や忌引きの日数を定めた法令。問I：4が正解。日蓮宗不受不施派は幕府権力よりも宗教が優越するという信仰を持っていた。問J：1が正解。朝鮮から日本宛ての国書の「大君」を「国王」に改めさせた。	
4	近代の政治 <史料>	問A：3・4が誤り。3「各府県によって区分し」たのではなく8大学区に分けた、4は学校令(1886)の説明。問B：2・4が誤り。2「兵役期間が短縮」ではなく兵役が免除、4「軍人勅諭」(1882)は徴兵令(1873)と「同年」ではない。問C：2・5が正しい。他には井上毅がいた。問D：難問。3・5が誤り。3「府県知事」ではなく内務大臣、5「民選」ではなく官選。問E：やや難。1・4が正しい。2「大」「小」が逆、3「第二次桂内閣」ではなく第二次山県内閣、5「20歳」ではなく25歳なのでそれぞれ誤り。問F：やや難。2・4が誤り。2「『東京朝日新聞』」ではなく『大阪朝日新聞』、4「『国民之友』」ではなく『中央公論』。問G：2・3が正しい。1の憲政会は「原敬」ではなく加藤高明。問H：3・5が正解。ちなみに最後の元老は西園寺公望。問I：2・4が正しい。1は第一次山本権兵衛内閣、3は寺内正毅内閣、5は田中義一内閣なのでそれぞれ誤り。問J：1・5が正しい。2は立憲同志会、3は立憲国民党、4は立憲政友会なのでそれぞれ誤り。	やや難
5	I：明治時代の通貨制度 II：大衆文化	問A：1が正しい。2「入超」ではなく出超、3「アメリカ」との取引は少ない、4「従価税」ではなく従量税、5「効果をあげていないのでそれぞれ誤り。問B：4が正解。金銀の交換比率が外国では1:15、日本では1:5であったことから判断する。問C：4が正しい。1「徴税権を失っ」ていない、2「禁じられてい」ない、3は1876年の事項、5「小作農に地券を交付し」ていないのでそれぞれ誤り。問D：5が誤り。「輸出」ではなく輸入、「正貨の蓄積が進」まない。問E：4が正しい。銀安(金高)傾向はアメリカとなら、円安ドル高を意味する。問F：「キング」が正解。大衆娯楽雑誌である。問G：「日本放送協会」が正解。NHKのこと。問H：「トーキー」が正解。有声映画のこと。問I：「モダンガール」が正解。モガのこと。問J：「ターミナルデパート」が正解。私鉄が経営した。	標準
6	戦後の経済と国民生活	問A：「残留孤児」が正解。中国人に育てられた日本人の子が、中国残留孤児である。問B：「代用食」が正解。食料不足が背景にある。問C：「復興金融」が正解。略称は復金。問D：「生産管理」が正解。難問だが、本学部では過去に出題済み。問E：やや難。4が正しい。教科書コラムからの出題。問F：物不足と通貨量増大がインフレを招く。問G：やや難。5が誤り。5は第一次吉田茂内閣の時だが、この判断は難しいので消去法で解こう。問H：やや難。1が誤り。日本進歩党は「中島知久平」ではなく町田忠治。問I：3が誤り。「片山内閣」ではなく芦田均内閣。	やや難

[総合コメント]

全体の4割近くを占める正誤問題22問は、正文選択と誤文選択が混在しているため慎重に解く必要がある。特に2つ選ぶ形式10問は注意して読みたい。選択肢には瑣末な語句や説明も散見されるが、それらをすべて知っている必要はなく、消去法で解ける問題も多い。今年度は第3問の史料読解が難しかった。記述問題はほぼ教科書本文の通りに出題されているので、教科書を熟読していた受験生は満点が取れただろう。論述30字1問は、昨年度は難しかったが、今年度は教科書本文のまま書けば正解であり、第5問の経済関係の問B・Eも教科書脚注からの出題であった。さて本学部の対策であるが、以上のように教科書熟読により思わず高得点が狙えるだろう。